

仙人通信 108 志賀山(2035m)・裏志賀山(2037m)・鉢山(2041m)

志賀山は志賀高原の南端に近く、草津白根山と同時期(9万年前)に形成された山で、周囲に沼(池)を持ち、多くの草花が咲くことで有名な3等三角点の山である。

硯川からのリフトで前山へ 渋池 志賀山 裏志賀山 四十八池 鉢山 硯川へと戻るコースである。軽井沢・鬼押・万座スカイラインから渋峠を経て硯川へとノンストップ4時間で到着した。途中霧に悩まされたが渋峠からは草津方面に雲海が広がり、晴を約束され、嬉しい。

リフト眼下では、レンゲツツジやイワハゼ(アカモノ)が群落を成してカメラを向けたい心境である。5分程で前山(1800m)に着き、志賀山を望み、僅かに下った湿地では、ワタスゲの群落である。シラビソ・ダケカンバ・ムシカリ等に包まれ、ゴロゴロした、しそ輝石安山岩の登山道を5分進と、渋池である。コバルトブルーの水面の浮島には、ゴケに白いワタスゲが揺れ驚が鳴く。長閑だ!。更に20分程で四十八池への分岐となり、木道を15分程進むと山への取り付きとなる。

白いムシカリ・ゴゼンタチバナ・パイカオーレンに、赤紫のオオムラサキ(躑躅)がバランスする。山頂近くでは、マイズルソウ・イワカガミ・イワナシ・サラサドウダンも加わり25分程で山頂だ。3等三角点を手で撫でてから裏志賀山へと向う。黄色い苗場キスミレも群落を成し、8分咲きだ。25分程で裏志賀山の山頂である。マイズルソウ・ツマトリソウの咲くベンチにて小休止をとる。眼下には四十八池や大沼池がコバルトブルーで綺麗である。登る時に眼前にあった笠ヶ岳・鉢山や赤石山・岩菅山方面の山々が望める。ロープの急なコースを30分程下ると四十八池と大沼の分岐である。四十八池では、浮島や岸にワタスゲ・ヒメシャクナゲ・ミズバショウの群落にショウジョウバカマも花を添える。モウセンゴケ・ミツガシワに期待したが、時期がズレていたようだ。リフトへ戻るコースと横手山コースの分岐から、横手山コースを採る。15分程登るとチシマザサが揺れてガサゴソと音を立てる『熊か?』。目を凝らすと根曲ダケ(竹の子)を取りにきた数名である。「取れるか」との問いに「今年はだめだ~」の返事が返ってきた。更に5分程で赤石山の分岐となり、鉢山へ向う。ここではなんと竹の子がニョキニョキと登山道端に出ているではないか。

50本程を採って、リックに詰めて今日の土産とした。分岐から20分で視界“0”の鉢山山頂である。鉢池へのコースを探したが見当たらず残念・・・。15分で横手山の分岐を硯川へと向う。道の表土が雨に流され、岩が剥き出しとなったコースで、登山者も少ない様だ。辛うじて表土の残った所には紫色のタチツボスミレや白い小さなヒカゲスミレが咲く。ピンクのベニバナイチヤクソウ・ハクサンチドリが一株ずつではあるが、めぐり会えたのは嬉しい。

30分程で横手山へのリフトの下に出る(この時期は運休)。スギゴケでフカフカの感触を楽しみながら下ると、ツマトリソウ・ゴゼンタチバナ・マイズルソウの白い群落である。そして、待っていてくれたかの様にカッコ-が鳴きはじめた。そんな4時間半(16000歩)の山登りでした。(h24.6.26)

真白に咲くワタスゲ



渋池



8cm程のヒメシャクナゲ

